

6-3(17)

Bortezomib とデキサメサゾンの併用が有用であった治療抵抗性多発性
骨髄腫の 2 症例

池田 博、林 敏昭、野島正寛、池田幸穂、石田禎夫、今井浩三

札幌医科大学第一内科

【目的】Bortezomib は NF- κ B の活性化に必要な I κ B を分解するプロテアソームの阻害を目的としてデザインされた新規分子標的治療薬である。今回我々は治療抵抗性多発性骨髄腫 2 例に bortezomib が有効でありデキサメサゾン (DEX) を併用することにより副作用を軽減することができたので報告する。【症例 1】62 歳女性, 多発性骨髄腫 (IgG- 型, stage) と診断され, 多剤併用化学療法、自家末梢血幹細胞移植, サリドマリド療法等を施行したが効果は一時的であった。Bortezomib 療法を 2 コース施行し IgG 値は 8040 から 1020mg/dl に低下, 骨髄中形質細胞は 1.2% となった。

【症例 2】43 歳男性, 多発性骨髄腫 (IgD 型, stage) と診断され, 多剤化学療法, 自家末梢血幹細胞移植, サリドマリド療法等施行するも治療抵抗性であった。Bortezomib 療法を 2 コース施行し IgD 値は 2140 から 623mg/dl に低下し, 骨髄中形質細胞は 60.5% から 14.6% に低下した。2 症例とも 2 コース目のみ DEX を併用したが 1 コース目と比較して貧血、血小板減少, 発熱, 疼痛, 全身倦怠感, 末梢神経障害等の副作用が軽減された。【結論】治療抵抗性の多発性骨髄腫 2 例に対して bortezomib と DEX の併用療法を施行し, 良好な治療成績が得られ, 副作用も減少させることができた。Bortezomib と DEX の併用療法は難治性多発性骨髄腫に対し有効な治療方法と考えられた。